「女性論」プロジェクト研究報告

A Report of the Women's Studies Project

女子大生のキャリアデザインと女子大学のキャリア教育に関する研究
―専門職養成学部を中心に―

Study about the Carrier Design of the Female University Students and Carrier Education for a Women's University

椙山女学園大学現代マネジメント学部教授
東　　珠実
Tamami Azuma
椙山女学園高等学校教諭
小川 奈保子
Naoko Ogawa
椙山女学園大学人間関係学部准教授
小倉　祥子
Shoko Ogura
椙山女学園大学国際コミュニケーション学部教授
影山　穂波
Honami Kageyama
椙山女学園大学人間関係学部教授
藤原　直子
Naoko Fujiwara
椙山女学園大学人間関係学部教授
吉田 あけみ
Akemi Yoshida

1．緒 言

中央教育審議会によるキャリア教育・職業教育の在り方に関する答申[1)]が示されてから、すでに５年が経過した。筆者らは、この間、女子大学におけるキャリア教育の在り方を検討するために、女子大学卒業生のライフコースの事例分析を行い[2)]、その結果を教材化（ロールモデル集）[3)]し、女子学園におけるキャリア教育用教材開発に関する研究[4)]を行い、キャリア教育授業のための教材[5)]を作成し、大学におけるキャリア教育の実態調査を実施してきた。

昨年は、本学の教養系の学部の学生たちを対象に「女子総合学園のキャリア教育に関する調査」[6)]を実施し、教養系学部の学生のキャリアデザインに関する実態を把握し、キャリア教育の課題を抽出した。

これらを踏まえ、本研究では、専門職養成学部の学生に対して、昨年同様の調査を実施し、専門職養成学部の学生のキャリアデザインに関する実態とキャリア教育の課題を明確にするとともに、昨年との比較によって、教養系、専門職養成系の差異並びに共通点を検討することにより、女子大学に在籍する学生たちの大学への進学動機と今後の理想のライフコースについて明らかにし、それぞれの学生のニ

ーズに合ったキャリア教育の在り方を追究することを目的とした。なお、調査にあたっては昨年の調査と同様に、京都女子大学による女子学生のキャリア教育に関する調査研究[7]を参照した。

2. 研究方法

1)調査対象者

本研究では、本学7学部のうち専門職養成系の学部としてとらえることのできる生活科学部、教育学部の2学部に在籍する1～3年生を調査対象とした。本来であるならば、看護学部が専門職養成系学部の筆頭であり、看護学部に調査を実施すべきであると思われるが、実習授業等のスケジュールの都合で、今回は看護学部を対象から外すこととした。両学部・各学科1、2、3年生各100名ずつを目安としたが、調査票(有効回答票)の回収数は、表1のとおりとなった。

すなわち、生活科学部340名、教育学部447名の合計787名を分析対象とした。

表1　調査対象者の属性(学部学科・学年)

学年＼学部学科	生活科		教育	合計
	管理栄養	生活環境デザイン	子ども発達	
1年	0	0	194	194
2年	125	93	154	372
3年	115	7	99	221
合計	240	100	447	787
	340		447	

2)調査方法

本研究における調査はアンケートにより実施した。調査時期は、2015年6～7月である。調査票は、授業中に配付・回収した。

調査内容は、以下のとおりである。

①大学進学に関する意思決定に関する事項(大学進学理由、学部・学科の選択)

②大学入学と資格取得に関する事項(大学入学時における資格取得の希望、大学入学時に取得をめざしていた資格)

③理想のライフコースと価値観に関する事項(卒業後の理想のライフコース、人生で重要なもの)

④卒業後の職業選択に関する事項(就きたい職業・職種に関する意思決定、就きたい職業、希望する雇用形態、就職先を決める上で重視すること)

⑤キャリア教育の経験と希望に関する事項(将来のキャリア形成に関してこれまでに学んだ(体験した)こと、将来のキャリア形成のために大学で学びたい(体験したい)こと、女子総合学園のキャリア教育について思うこと)

調査結果は、全体及び学科別に集計し、全体的傾向を把握するとともに学科間の比較分析を行った。

3. 結果及び考察

調査結果の概要は、表2に示したとおりである。

表２　調査結果の概要(1)

学部		生活科		教育	全体
質問・選択肢	学科	管理栄養	生活環境デザイン	子ども発達	(全体平均または合計)
どのような理由で大学へ進学したか	専門的な知識を身に付けたいから	82	50	100	232
	教養を身に付けたいから	5	4	19	28
	資格を取りたいから	86	13	238	337
	就職を有利にしたいから（良い条件で就職したいから）	15	12	26	53
	友達をつくりたいから	0	0	1	1
	大学進学が当たり前という環境だったから	37	14	38	89
	親や塾に先生、知人など周囲の勧めがあったから	4	3	3	10
	その他	5	2	1	8
将来就きたい職業を考えて学部・学科を選んだか	よく考えて選んだ	89	36	330	455
	少し考えて選んだ	107	43	90	240
	どちらともいえない	14	9	19	42
	あまり考えずに選んだ	24	11	7	42
	全く考えずに選んだ	6	1	0	7
在学中に資格を取得したいと思っていたか	はい（資格を取得したいと思っていた）	228	92	432	752
	いいえ（資格を取得したいと思っていなかった）	11	8	9	28
卒業後理想とするライフコースはどのようなものか	結婚後ずっと専業主婦	12	5	11	28
	出産後ずっと専業主婦	8	3	16	27
	結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く	25	10	54	89
	出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く	100	28	139	267
	結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く	13	6	27	46
	出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く	30	31	105	166
	結婚・出産後も変わらずフルタイムで働く	25	10	59	94
	結婚後はパートタイムで働く	5	2	2	9
	結婚せずフルタイムで働く	13	2	14	29
	結婚後、子どもはつくらずフルタイムで働く	2	1	4	7
	その他	4	0	8	12
人生にとってどの程度重要か（1～5点）	子育て	4.1	4.1	4.4	4.3
	親孝行	4.2	4.3	4.3	4.3
	パートナー（配偶者、恋人）との関係	4.1	4.2	4.3	4.2
	友人との関係	4.2	4.4	4.5	4.5
	仕事	3.9	4.1	4.1	4
	健康	4.5	4.3	4.4	4.4
	美容	3.6	3.7	3.7	3.6
	自己啓発活動（自分のための趣味の活動）	4.0	4.0	3.9	4.0
	社会貢献活動（社会に役立つ趣味の活動）	3.2	4.4	3.6	3.6
卒業後に就きたい職種・職業が決まっているか	はっきり決めている	15	6	189	210
	ある程度決めている	104	41	205	350
	あまり明確に決めていない	110	44	44	198
	まったく決めていない	9	7	4	20
	進学するつもり	0	2	2	4
	就職も進学もするつもりはない	0	0	0	0
	その他	1	0	3	4
卒業後、どのような職業を希望しているか	会社員	150	75	26	251
	公務員（教員以外）	45	9	34	88
	教員	10	7	359	376
	自営業者（家業を継ぐ）	4	2	4	10
	その他	28	4	12	44

注：1）各質問に対する有効回答（未回答、不適切回答を除く）の結果を示した。
　　2）〔1～5点〕で回答を求めた質問の数値は平均点、その他の質問の数値は回答数を表す。

表2　調査結果の概要(2)

学部			生活科		教育	全体
質問・選択肢	学科		管理栄養	生活環境デザイン	子ども発達	(全体平均または合計)
卒業後、どのような雇用形態を希望しているか	正規の職員・従業員		234	97	428	759
	パート		2	1	5	8
	アルバイト		0	0	1	1
	労働者派遣事業所の派遣社員		0	0	0	0
	契約社員		1	0	1	2
	嘱託		0	0	0	0
	その他		0	0	1	1
就職先を決める上でどの程度重視しているか（1～5点）	自分の能力やスキルを活かせる		4.1	4.3	4.2	4.2
	仕事の内容にやりがいを感じる		4.4	4.6	4.6	4.5
	時間的・精神的負担が少ない		4.1	3.9	3.6	3.8
	給与が高い		4.0	4.0	3.7	3.8
	休暇がとりやすい		4.0	4.0	3.6	3.8
	職場への交通の便が良い		4.0	3.9	3.8	3.9
	職場の雰囲気・人間関係が良い		4.7	4.7	4.5	4.6
	長く勤め続けることができる		4.3	4.3	4.2	4.2
	経営・雇用が安定している		4.5	4.4	4.4	4.4
	仕事を通じて社会貢献できる		3.5	3.5	4.0	3.8
	性別にかかわりなく活躍できる		3.7	3.9	4.0	3.9
将来のキャリア形成に関する事項をこれまでに学んだ（体験した）ことがあるか	近年の就職状況	ある	160	74	320	554
		ない	80	26	127	233
	働く女性の現状	ある	192	75	347	614
		ない	48	25	100	173
	ロールモデル（目標となる先輩）や卒業生の体験談	ある	127	68	251	446
		ない	113	32	196	341
	生活設計の方法	ある	196	80	345	621
		ない	44	20	102	166
	就職活動に必要な具体的なスキル（エントリーシートの書き方、面接の受け方など）	ある	65	28	180	273
		ない	175	72	267	514
	就職採用試験（筆記試験）の内容	ある	77	29	129	235
		ない	163	71	318	552
	インターンシップ（現場の就業体験）	ある	158	49	258	465
		ない	82	51	189	322
	OGとのネットワーク	ある	167	81	345	593
		ない	73	19	102	194
	就職のために今するべきこと	ある	89	45	183	317
		ない	151	55	264	470
将来のキャリア形成に関する事項を大学でどの程度学びたいか（1～5点）	近年の就職状況		4.1	4.1	3.9	4.0
	働く女性の現状		3.7	4.0	3.8	3.8
	ロールモデル（目標となる先輩）や卒業生の体験談		4.2	4.1	4.2	4.2
	生活設計の方法		3.7	3.9	3.8	3.8
	就職活動に必要な具体的なスキル（エントリーシートの書き方、面接の受け方など）		4.7	4.7	4.4	4.5
	就職採用試験（筆記試験）の内容		4.6	4.6	4.6	4.6
	インターンシップ（現場の就業体験）		3.9	4.4	4.1	4.1
	OGとのネットワーク		3.9	3.8	3.8	3.9
	就職のために今すべきこと		4.5	4.4	4.4	4.5

注：1）各質問に対する有効回答（未回答、不適切回答を除く）の結果を示した。
　　2）〔1～5点〕で回答を求めた質問の数値は平均点、その他の質問の数値は回答数を表す。

以下では、表2及びより詳細なデータに基づいて作成した図表を提示し、項目別に結果を考察する。

（1）大学進学に関する意思決定

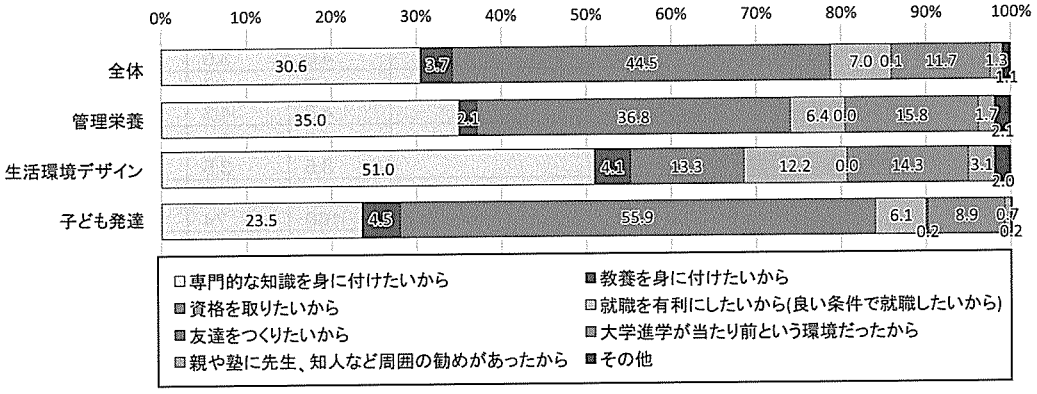
a. 大学進学理由

「あなたはどのような理由で大学へ進学し

ましたか」という問いに対する回答は、図１のとおりである。全体をみると、「資格をとりたいから」が最も多く、次いで「専門的な知識を身に付けたいから」があげられ、これらを合わせると７割を超える。これに対し「大学進学があたり前という環境だったから」は約１割、「就職を有利にしたいから（良い条件で就職したいから）は7.0%にとどまることから、学生たちは、総じて、具体的で明確な動機を意識して大学へ進学している様子がうかがえる。

また、学科別に比較すると、子ども発達学科で「資格をとりたいから」が多く、生活環境デザイン学科で「専門的な知識を身に付けたいから」とする学生がかなり多いことが分かる。

図1　どのような理由で大学に進学したか（1つ選択）

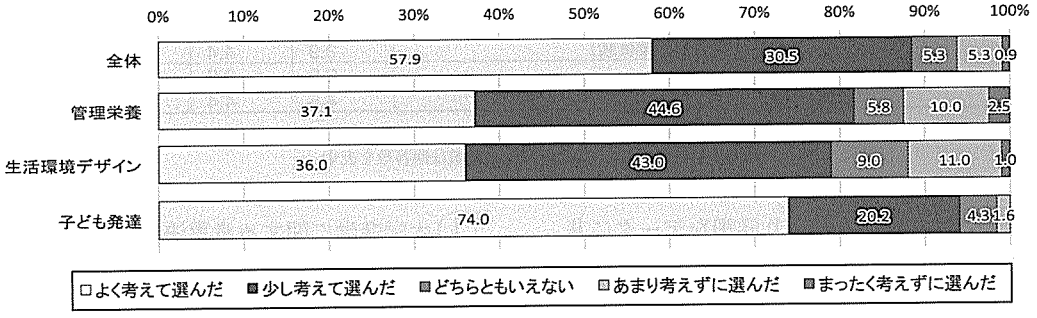


注：χ^2検定によれば学科別の回答には1%水準で有意差が認められる（p = 0.0000）。

b. 学部・学科の選択

「あなたは将来就きたい職業を考えて学部・学科を選びましたか」という質問に対する回答は、図２のとおりである。全体をみると「よく考えて選んだ」が最も多く、「少し考えて選んだ」を合わせると９割近くにのぼる。これに対し「あまり考えずに選んだ」が5.3%、「まったく考えずに選んだ」は0.9%であることから、大半の学生が将来就きたい職業を考えて選んでいることが分かる。

図２　将来就きたい職業を考えて学部・学科を選んだか〔１つ選択〕



注：χ^2検定によれば学科別の回答には1%水準で有意差が認められる（p = 0.0000）。

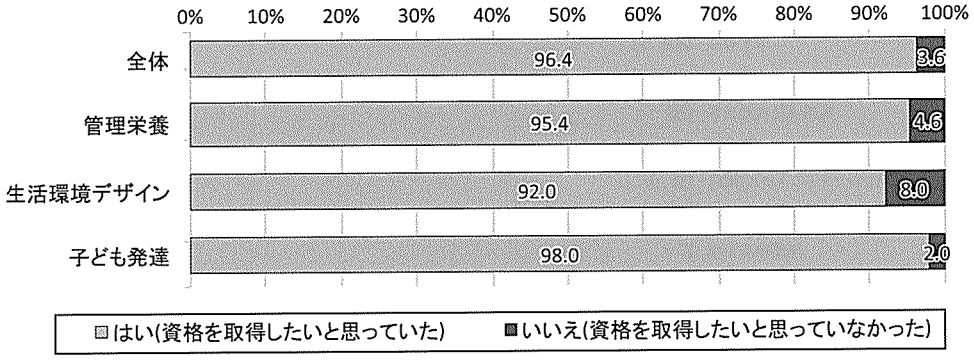
学科別に比較してみると、「よく考えて選んだ」が管理栄養学科や生活環境デザイン学科が4割弱にとどまるのに対し、子ども発達学科は7割を超えることから、学部・学科選択をする際に子ども発達学科は将来就きたい職業を明確に意識していることがうかがえる。

(2)大学入学と資格取得

a. 大学入学時における資格取得の希望

「あなたは大学入学時、在学中に何か資格を取得したいと思っていましたか」という質問に対する回答は、図3のとおりである。全体をみると、「はい(資格を取得したいと思っていた)」が96.4%で、大半の学生が資格取得を望んで大学に入学したことが分かる。学科別に比較すると、子ども発達学科では「はい」と答えた人が98%に達し、他の学科以上に資格志向が強いことが分かる。子ども発達学科は教員養成系の学科であるため、十分に検討したうえで学科を受験したという図1の結果とも符合する。また管理栄養士の育成を進めている管理栄養学科においても「いいえ(資格を取得したいと思っていなかった)」を選択した学生は4.6%にすぎないという結果となった。生活環境デザイン学科も資格志向は強いが、教員や管理栄養士のように、学科に共通する一つの資格をイメージするわけではないためか、8%と1割近くの学生が「いいえ(資格を取得したいと思っていなかった)」を選択している。

図3　大学入学時、在学中に何か資格を取得したいと思っていたか



注：χ^2検定によれば学科別の回答には1%水準で有意差が認められる($p = 0.009$)。

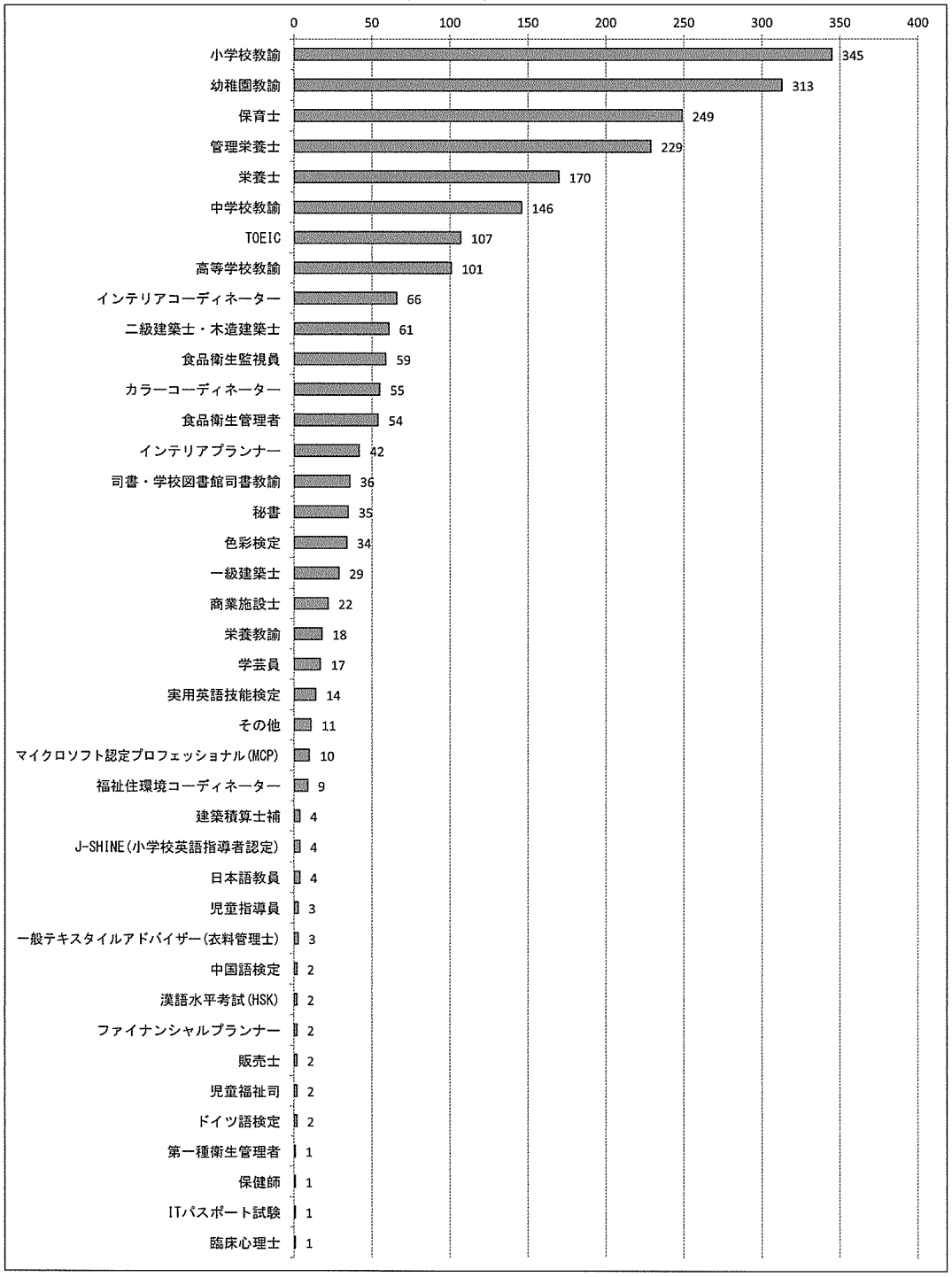
b. 大学入学時に取得をめざしていた資格

「大学入学時、あなたが取得を目指していた資格は何ですか」という問いに対する回答は、図4のとおりである。全体をみると、「小学校教諭」が最も多く、次いで「幼稚園教諭」となり、4割前後の人がこの二つの資格をあげていた。しかしこの結果は、子ども発達学科の母数が半数以上を占めることに起因していると考えられるため、学科別に比較する。

表3は、取得を目指す資格を学科別に分類したものである。これをみると3学科に共通して見られる資格は「TOEIC」のみである。中学校・高等学校の教諭は生活環境デザイン学科と子ども発達学科に共通するが、その他の資格は全く学科により異なっていることが特徴のひとつである。資格志向の学部学科であ

図４　大学入学時、取得をめざしていた資格(受験資格、任用資格、検定試験などを含む)はなにか

〈全　体〉　〔複数回答：人〕



るため当然の結果ではあるが、明確な差異がみられた。管理栄養学科では管理栄養士が93.8％と大半の学生が志向しており、栄養士は約半数、食品衛生監視員、食料衛生管理者が2割程度と学科にかかわる資格が続く。生活環境デザイン学科に関しては、6割以上がインテリアコーディネーター、二級建築士・木造建築士を目指しているが、管理栄養学科ほど明確な数字とはなっていない。これはアパレル系と建築・住宅系の分野があるためであろう。インテリアプランナー、色彩検定、一級建築士と志望資格が続く。いずれにしても、TOEICと中学校・高等学校教諭を除き、学科専門に密着した資格が並んでいるのは管理栄養学科と同様の傾向といえよう。教育学部子ども発達学科に関しても、TOEICを除いて、教員養成系の資格が列挙された。小学校・幼稚園教諭が7割以上を占め、保育士が半数を占める。副免となる中学校・高等学校が2～3割で、司書・司書教諭が1割弱となった。3学科に共通して、入学した後は、資格取得に向かい教育されていると考えることもできよう。このことは、昨年の教養系学部学科における調査の結果においては、それぞれの学科の特徴はみられるものの、学部の違いを越えた一般的な資格を志向していたことと比較すると異なる結果となった。

表3　大学入学時、取得をめざしていた資格（受験資格、任用資格、検定試験などを含む）はなにか

〈学 科 別〉　〔複数回答：％〕

順位	全体	管理栄養	生活環境デザイン	子ども発達
1	小学校教諭 44.1	管理栄養士 93.8	インテリアコーディネーター 64.0	小学校教諭 76.5
2	幼稚園教諭 40.0	栄養士 48.7	二級建築士・木造建築士 60.0	幼稚園教諭 70.0
3	保育士 31.8	食品衛生監視員 24.6	カラーコーディネーター 51.0	保育士 55.5
4	管理栄養士 29.3	食品衛生管理者 22.5	インテリアプランナー 41.0	中学校教諭 29.1
5	栄養士 21.7	TOEIC 17.9	色彩検定 31.0	高等学校教諭 17.9
6	中学校教諭 18.7	栄養教諭 9.2	一級建築士 29.0	TOEIC 11.6
7	TOEIC 13.7	—	商業施設士 28.0	司書・学校図書館司書教諭 7.8
8	高等学校教諭 12.9	—	TOEIC 12.0	—
9	インテリアコーディネーター 8.0	—	高等学校教諭 10.0	—
10	二級建築士・木造建築士 7.8	—	建築積算士補 9.0	—
11	食品衛生監視員 7.5	—	福祉住環境コーディネーター 9.0	—
12	カラーコーディネーター 7.0	—	中学校教諭 8.0	—
13	食品衛生管理者 6.9	—	学芸員 8.0	—
14	インテリアプランナー 5.3	—	—	—

注：1）5％以上の学生が取得を希望していた資格を掲げた。
　　2）上段は資格名、下段は当該資格の取得を希望していた学生の割合を示した。

（3）理想のライフコースと価値観

a. 卒業後の理想のライフコース

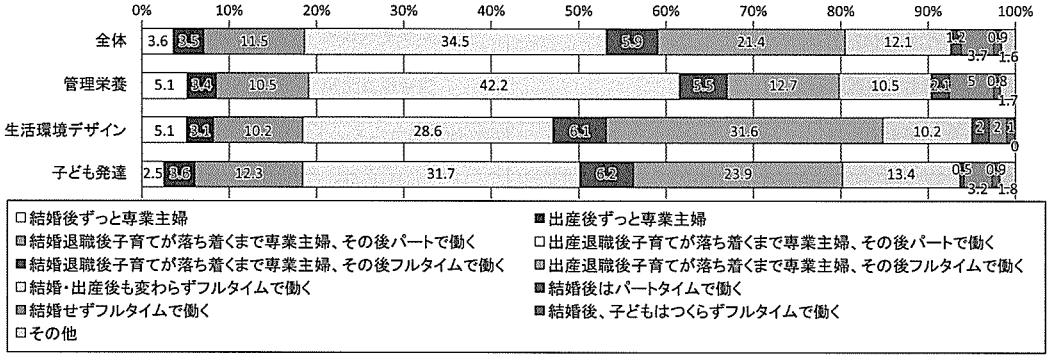
「あなたが卒業後、理想とするライフコースはどのようなものですか」という問いに対する回答は、図5のとおりである。全体をみると、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く」が最も多く34.5％を占めている。次いで「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く」が21.4％、「結婚・出産後も変わらずフルタイムで働く」が12.1％、「結婚退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートで働く」が11.5％の順となっている。

選択肢を組み合わせてみると、ほとんどの学生が理想のライフコースに「結婚・出産」を想定していることが分かる。また「仕事」との関わり方では、結婚・出産の有無、復職のタイミング等を組み合わせると、パートタイム希望が46.0％、フルタイム希望が44.0％、専業主婦希望が7.1％であった。

さらにこの結果を国立社会保障・人口問題研究所が2010年に実施した「第14回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」[8]の結果と比較すると、女子大学に通う調査対象者層の特徴が明確となる。同調査によれば、未婚女性の理想のライフコースについて、「専業主婦コース」19.7％、「再就職コース」35.2％、「両立コース」30.6％、「DINKSコース」3.3％、「非婚就業コース」4.9％という結果が得られている。本調査の結果を同様に集計しなおすと、「専業主婦コース」7.1％、「再就職コース」73.3％、「両立コース」13.3％、「DINKSコース」0.9％、「非婚就業コース」3.7％となる。調査に関する諸条件が異なるため単純に比較はできないが、いずれにしても、本調査の対象学生がいわゆるM字型（再就職コース）を強く志向しており、両立コースの希望者が少ないことが明白である。

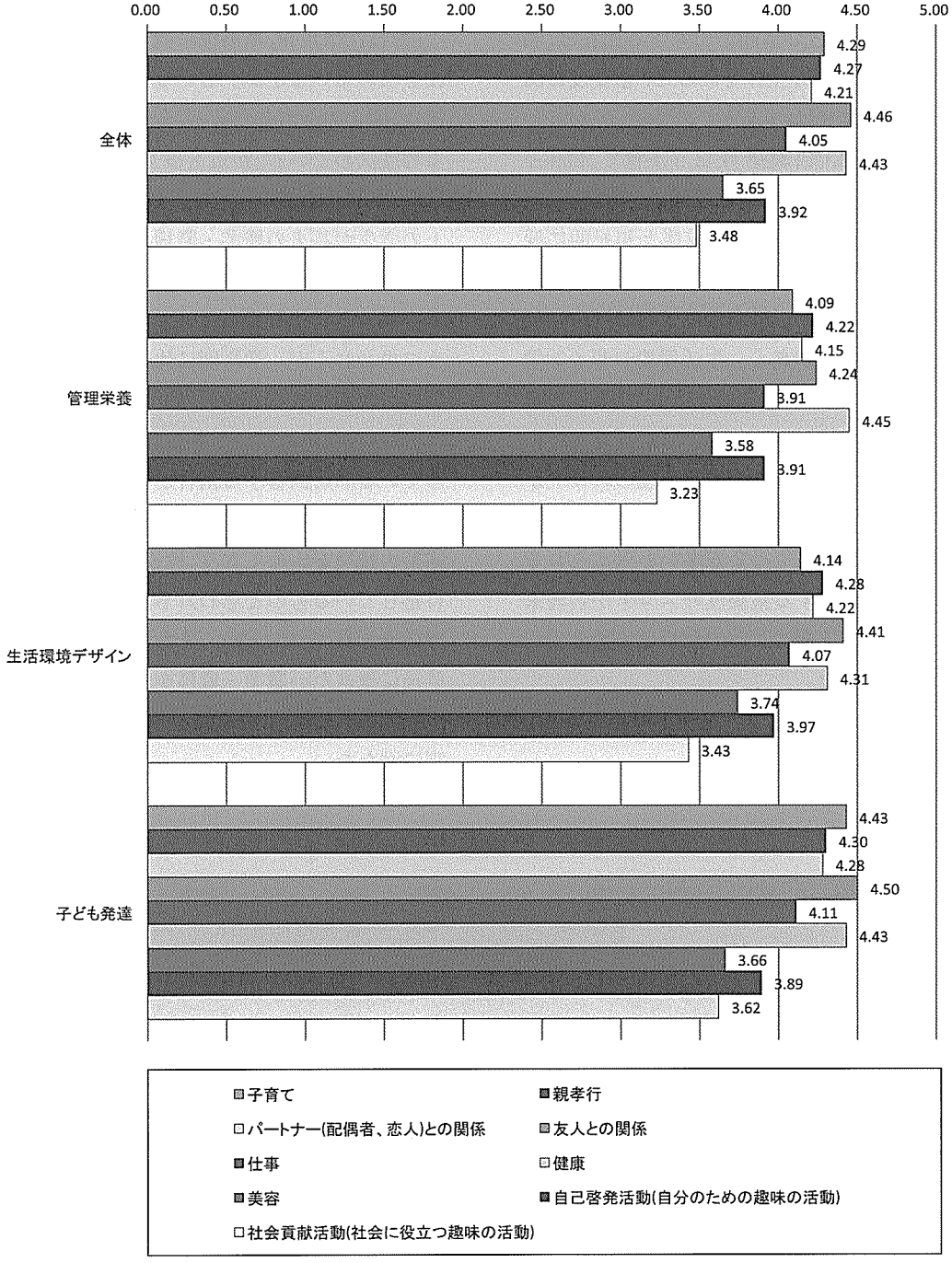
これらの結果を学科別にみると、生活環境デザイン学科では、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後フルタイムで働く」希望が31.6％と、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートタイムで働く」コース（28.6％）を上回っているという特徴がある。一方管理栄養学科では、「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦、その後パートタイムで働く」コースが42.2％と相対的に高く、全体の平均と比べ7.7ポイント上回っているという特徴がある。

図5 卒業後理想とするライフコースはどのようなものか（1つ選択）



注：χ^2検定によれば学科別の回答には5％水準で有意差が認められる（p = 0.018）。

図６　人生にとってどの程度重要か〔５段階評定：平均点〕



b. 人生で重要なもの

「あなたの人生にとって次の事項はどの程度重要ですか」という問いに対する回答は、図6のとおりである。全体をみると、重要度に関する平均スコアは、「友人との関係」が4.46と最も高く、次いで「健康」4.43、「子育て」4.29となっている。一方、「社会貢献活動」や「美容」項目は重要度のスコアが3.5前後と相対的に低い。

学科別にみると、管理栄養学科は「健康」の重要度のスコアが高く、生活環境デザイン学科では「友人との関係」、「健康」の重要度のスコアが高い。子ども発達学科では、「友人との関係」、「子育て」、「健康」の重要度のスコアが高くなっている。管理栄養学科と子ども発達学科では専門資格取得者が多いと考えられるが、「仕事」に関する重要度のスコアが管理栄養学科で3.91と低く、この結果は予想と異なるものであった。

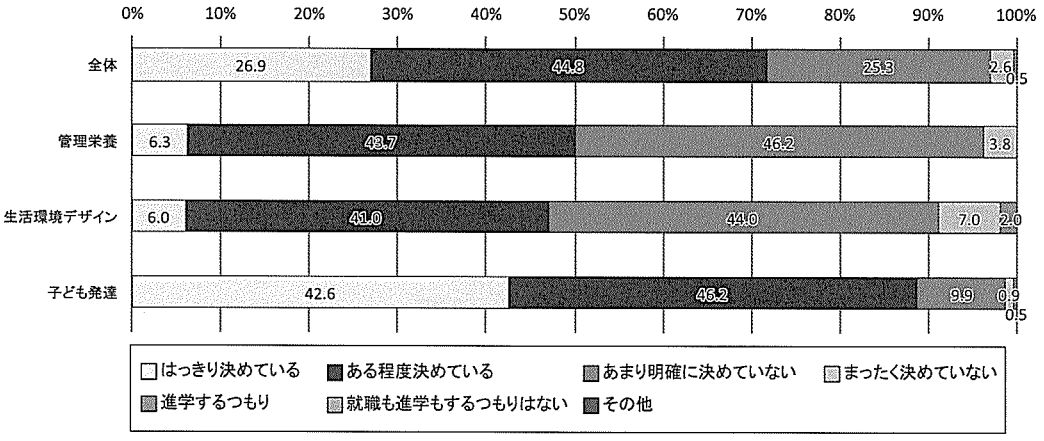
(4)卒業後の職業選択

a. 就きたい職業・職種に関する意思決定

「あなたは現在、卒業後に就きたい職種・職業を決めていますか」という問いに対する回答は、図7のとおりである。全体をみると、「ある程度決めている」が最も多く44.8%を占め、「はっきり決めている」を合わせると、7割以上の学生が将来の職業・職種について具体的なイメージをもっている。これは、専門職養成系学部・学科の特徴を示唆する結果であるように思われるが、学科別に比較すると大きな差異が認められる。

「はっきり決めている」または「ある程度決めている」と回答する割合が非常に高いのは子ども発達学科で、9割近くの学生が将来の職業・職種を決めており、教諭、保育士などを目指しているものと思われる。これに対し、管理栄養学科で「はっきり」または「ある程度」卒業後に就きたい職業・職種を決めているのは5割にとどまり、生活環境デザイン学科では5割に満たない。

図7　卒業後、就きたい職業・職種が決まっているか



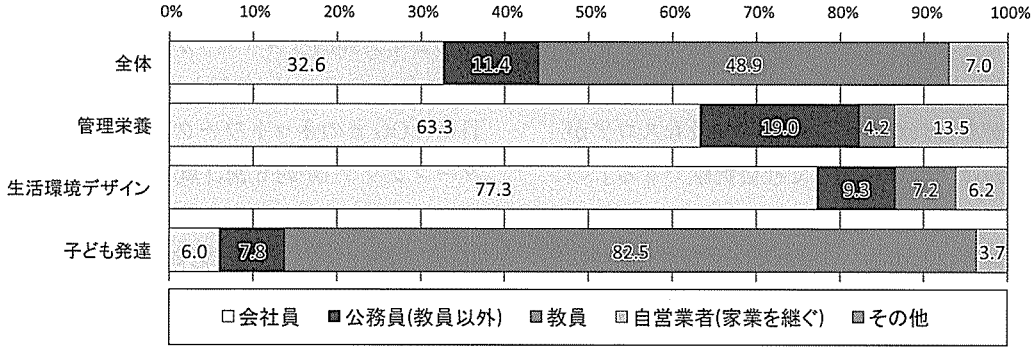
注：χ^2検定によれば、学科別の回答には1%水準で有意差が認められる($p = 0.0000$)。

b. 就きたい職業

「あなたは大学卒業後、どのような職業を希望していますか」という問いに対する回答は、図８のとおりである。全体をみると、調査対象者の学部・学科構成を反映し、「教員」が最も多く全体の半数近くを占め、次いで３割強が「会社員」、１割強が「公務員」と答えている。

学科別に見ると、子ども発達学科では、８割以上が「教員」と答えており、これが全体の結果に影響を及ぼしている。一方、管理栄養学科では6割強が、生活環境デザイン学科では8割近くが「会社員」と答えており、さらに管理栄養学科では「公務員」と答える学生も２割程度みられる。

図８　卒業後、どのような職業に就きたいか



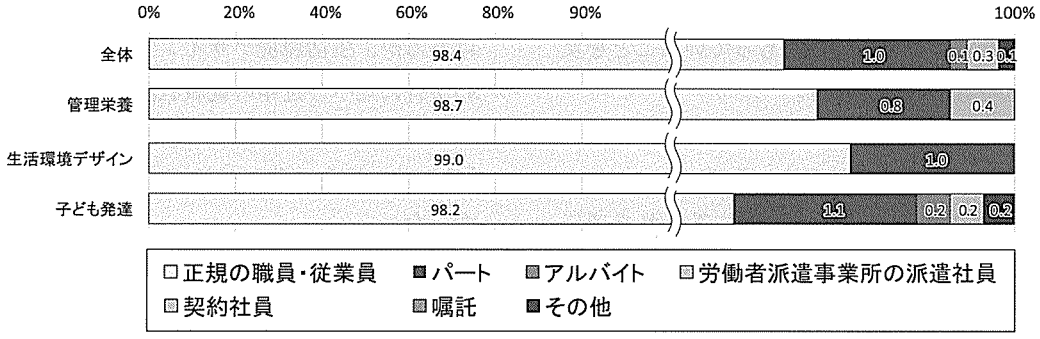
注：χ^2検定によれば、学科別の回答には1%水準で有意差が認められる（p = 0.0000）。

c. 希望する雇用形態

「あなたは大学卒業後、どのような雇用形態を希望していますか」という問いに対する回答は、図９のとおりである。全体をみると、ほとんどすべての学生が「正規の職員・従業員」と回答している。

学科別にみても、いずれも同様の結果となっており、専門分野や将来就きたい職業に関わらず、学生たちは、総じて安定した収入の得られる雇用形態を望んでいることが明らかである。

図９　卒業後、どのような雇用形態で働きたいか



注：χ^2検定によれば、学科別の回答には有意差は認められない

d. 就職先を決める上で重視すること

「あなたは就職先を決める上で次の事項をどの程度重視しますか」という問いに対する回答(1～5点の評定点を選択)は、図10のとおりである。全体をみると、就職先を決める上で重視する程度が最も高いのは、「職場の雰囲気・人間関係が良い」で、そのスコアは4.59である。次いで「仕事の内容にやりがいを感じる」が4.53、「経営・雇用が安定している」が4.41となっており、さらに「長く務め続けることができる」、「自分のスキルや能力を活かせる」が続く。これら以外の選択肢のスコアには大差がみられないが、相対的に最もスコアが低いのは「仕事を通じて社会貢献できる」の3.75である。

学科別にみると、上位の3つの選択肢は3学科に共通であるが、管理栄養学科と生活環境デザイン学科では「職場の雰囲気・人間関係が良い」のスコアが最も高いのに対し、子ども発達学科では「仕事の内容にやりがいを感じる」のスコアが最も高い。また、スコアが最も低い選択肢をみると、管理栄養学科と生活環境デザイン学科では「仕事を通じて社会貢献できる」であるのに対し、子ども発達学科では「時間的・経済的負担が少ない」である。これらの結果は、子ども発達学科の学生が目指している「教員」という仕事が、管理栄養学科や生活環境デザイン学科の学生が目指している「会社員」とは異なる性質をもっていることを反映したものといえよう。

(5)キャリア教育の経験と希望

a. 将来のキャリア形成に関してこれまでに学んだ(体験した)こと

「将来のキャリア形成(就職、生活設計)に関する事項について、これまでに学んだ(体験した)ことがありますか」という問いに対する項目別の回答は、図11のとおりである。

全体をみると、大学の授業で学んだこととしては、「生活設計の方法」が43.2%と最も割合が高く、次に「働く女性の現状」が38.1%と続く。また、キャリアサポート課のイベント等で学んだことは「就職のために今すべきこと」「就職採用試験(筆記試験)の内容」「就職活動に必要な具体的なスキル」が15%前後であった。これまで学んだ(体験した)ことはない項目は、「OGとのネットワーク」が約7割、「インターンシップ」が約6割、「就職採用試験(筆記試験)の内容」が約5割であった。これらの結果は、今回の調査における回答者に2年生が多いこと、キャリアサポート課主催の活動時期との兼ね合いで、未体験者が多いことも考えられる。また、中学・高校での学びや体験では、「近年の就職状況」が最も割合が高く48.1%であった。次に、「働く女性の現状」「ロールモデルや卒業生の体験談」「生活設計の方法」と続いている。

表4の学科別をみると、資格専門職養成系3学科において大きな差はみられない。前回の調査では、学部によって大学で学んだことの割合に差があり、学部のカリキュラムの特徴が反映されていると推測された。若干の差ではあるが、生活環境デザイン学科が他の2つの学科に比べ、「近年の就職状況」「働く女性の現状」の項目に関し、中学・高校・大学以外の「その他の機会に学んだ」と回答する割合が高かった。

b. 将来のキャリア形成のために大学で学び

図10　将来の就職先を決める上でどの程度重視するか〔５段階評定：平均点〕

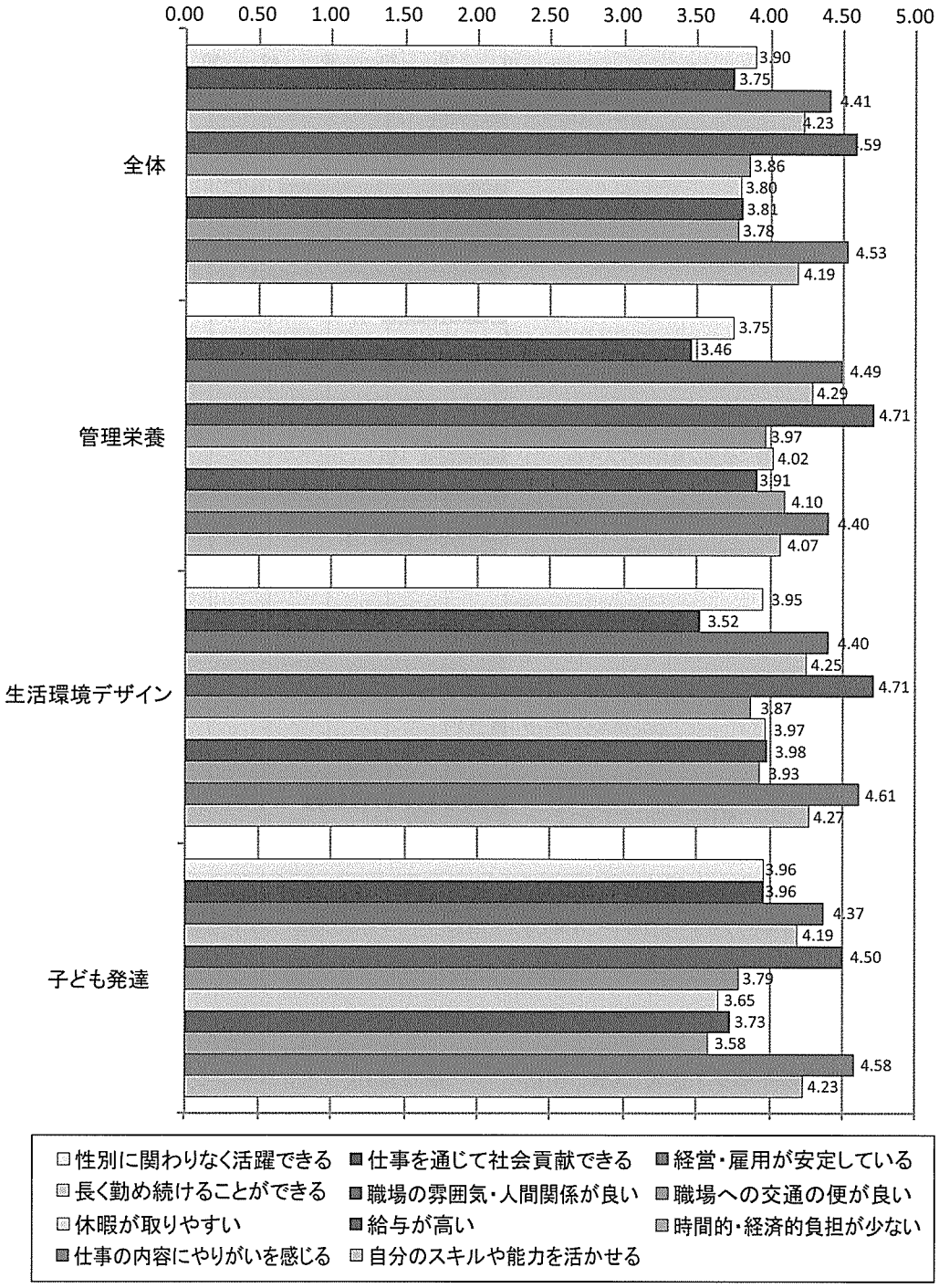
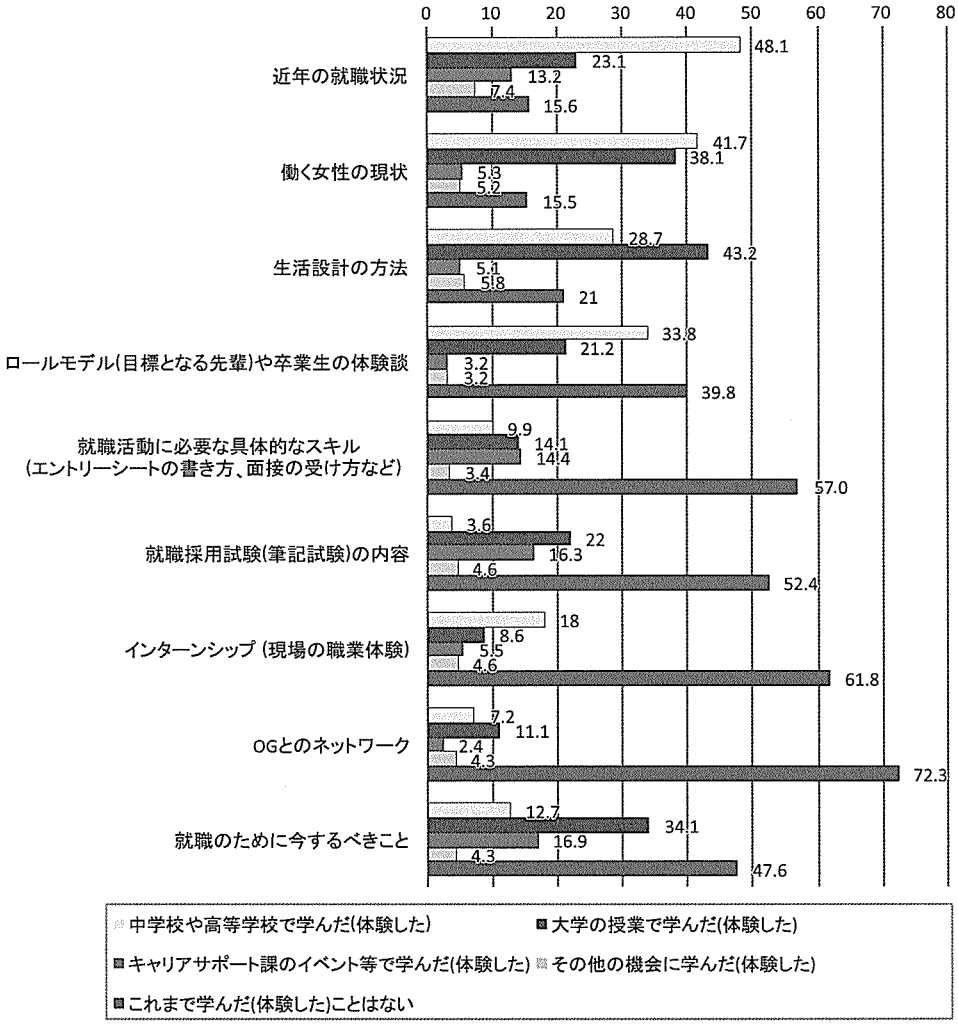


図11　将来のキャリア形成に関する事項についてこれまで学んだ(体験した)ことがあるか
＜全　体＞　(%)



たい(体験したい)こと

「あなたの将来のキャリア形成(就職、生活設計)のために、次の事項をどの程度学びたい(体験したい) ですか」という問いに対する回答は、図12のとおりである。全体をみると、「就職活動に必要な具体的なスキル」「就職採用試験の内容」がいずれも4.6程度の高いスコアを示しており、続いて「就職のために今するべきこと」4.46、「ロールモデルや卒業生の体験談」4.19、「インターンシップ」4.09、「近年の就職状況」 4.0となっている。逆に相対的にスコアが低いのは「生活設計の方法」3.77、「働く女性の現状」 3.79である。これらの結果から、将来のキャリア形成のために学生が学びたい内容とは、就職活動に役立つような具体的な内容やスキルであることがうかがえる。

表4　将来のキャリア形成に関する事項についてこれまで学んだ（体験した）ことがあるか
〈学 科 別〉　（%）

項目	選択肢	管理栄養	生活環境デザイン	子ども発達
近年の就職状況	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.4	0.0	1.6
	大学の授業で学んだ（体験した）	2.1	1.0	4.1
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	21.9	16.3	25.6
	その他の機会に学んだ（体験した）	41.4	56.1	40.0
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	33.8	26.5	28.7
働く女性の現状	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.8	0.0	1.4
	大学の授業で学んだ（体験した）	6.3	1.0	4.7
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	32.6	19.4	32.3
	その他の機会に学んだ（体験した）	40.2	54.1	39.1
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	20.1	25.5	22.6
生活設計の方法	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.0	0.0	0.8
	大学の授業で学んだ（体験した）	3.4	2.0	3.4
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	16.0	19.4	18.3
	その他の機会に学んだ（体験した）	33.2	45.9	33.6
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	47.5	32.7	44.2
ロールモデル（目標となる先輩）や卒業生の体験談	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	1.3	0.0	0.9
	大学の授業で学んだ（体験した）	3.8	0.0	5.9
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	36.6	28.6	31.2
	その他の機会に学んだ（体験した）	39.9	51.0	38.9
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	18.5	20.4	23.1
就職活動に必要な具体的なスキル（エントリーシートの書き方、面接の受け方など）	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.0	0.0	1.4
	大学の授業で学んだ（体験した）	0.8	1.0	1.4
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	7.1	5.1	10.8
	その他の機会に学んだ（体験した）	18.4	20.4	26.2
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	73.2	73.5	60.3
就職採用試験（筆記試験）の内容	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.0	1.0	0.5
	大学の授業で学んだ（体験した）	1.3	0.0	1.8
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	6.7	7.1	7.4
	その他の機会に学んだ（体験した）	23.4	19.4	18.5
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	68.2	72.4	71.8
インターンシップ（現場の職業体験）	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	1.7	0.0	1.4
	大学の授業で学んだ（体験した）	8.4	1.0	3.9
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	24.7	11.2	16.8
	その他の機会に学んだ（体験した）	31.0	35.7	35.1
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	34.3	52.0	42.9
OG とのネットワーク	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.8	0.0	1.1
	大学の授業で学んだ（体験した）	2.5	3.1	5.6
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	28.2	28.6	27.5
	その他の機会に学んだ（体験した）	37.8	49.0	42.7
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	30.7	19.4	23.0
就職のために今するべきこと	中学校や高等学校で学んだ（体験した）	0.4	0.0	0.5
	大学の授業で学んだ（体験した）	0.4	0.0	1.6
	キャリアサポート課のイベント等で学んだ(体験した)	9.6	14.3	10.4
	その他の機会に学んだ（体験した）	26.4	29.6	28.0
	これまでに学んだ（体験した）ことはない	63.2	56.1	59.6

注：経験率（学んだ学生の割合）または未経験率（これまでに学んだことはない学生割合）が 50% を超えるものに網掛けをした。

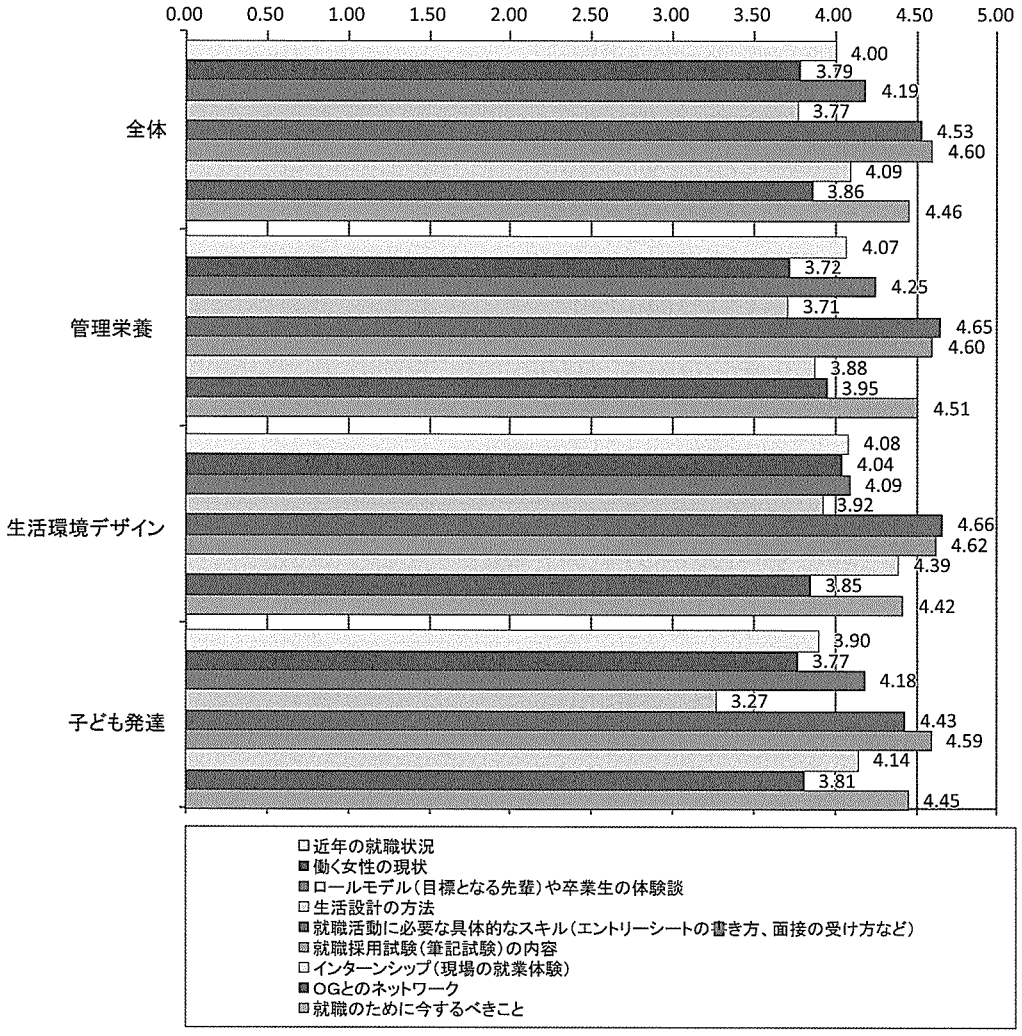
学科別に比較すると、他の２学科に比べ、生活環境デザイン学科は「働く女性の現状」や「インターンシップ」のスコアが相対的に高くなっている。これは、卒業後の進路が他の２学科に比べ、一般企業への就職が多いことが考えられる。管理栄養学科では、相対的に「ロールモデルや卒業生の体験談」のスコアが高く、卒業後のイメージについて関心が高いことが分かる。子ども発達学科は、「就職採用試験の内容」が最も高いスコアであり、教員採用試験に関する学びの関心が高いことを示している。その一方で、「生活設計の方法」に関しては、相

対的に低いスコアとなっている。

これらの結果については、調査対象者の学年構成の影響なども受けていると思われるが、卒業後の進路や職業が反映されていると考えられる。総じて、就職活動に直結するような内容に関する学びの関心が高いのは明らかではあるが、内容的には学科別で異なるものと考えられる。管理栄養学科での「管理栄養士」の資格取得や子ども発達学科での「教師」という専門職に就くための学びと、一般的な就職活動を行う生活環境デザイン学科の学生の学びの関心は異なってくるということであろう。

一方、「働く女性の現状」や「生活設計の方法」は相対的にスコアが低い傾向がある。これ

図12　将来のキャリア形成に関する事項をどの程度学びたい（体験したい）か
〔5段階評定：平均点〕



は、就職活動に直結した知識とはいえないが、将来のキャリア形成、とりわけ職業社会における自分の生き方を実現できる力を身につけるという点において重要である。それゆえに、学生の就職活動に役立つことを学びたいという意識を理解しつつ、今後のライフキャリアを見通した知識への関心をいかに向上させるかが今後のキャリア支援の課題だと思われる。

c. 女子総合学園のキャリア教育について思うこと

最後に、「女子総合学園のキャリア教育について、あなたが思うこと(希望、独自性など)を自由に書いてください」という問いに対する回答について考察する。

全調査回答者のうち118名から回答(自由記述)が得られた。それらの回答の中から、女子総合学園のキャリア教育に求める内容や椙山女学園大学のキャリア教育の中で評価されている点をまとめると、以下のようである。

①インターンシップなどの職業体験の充実やガイダンス等の具体的な就職支援
②卒業生などによる具体的な体験談
③働く女性の現状に関する情報提供
④女性の自立、活躍のための教育
⑤マナーに関する教育

①については、「インターンシップの場がもっと増えるとうれしい」「ガイダンスなどがとてもたすかる」「就職対策が遅い」「1、2年生からインターンシップや企業説明会の説明をしてほしい」「採用試験について詳しく説明してほしい」「幼稚園や保育園の情報を教えてほしい」「保育者の話をもっと聞きたい」「専門的な資格が必要となる職種につきたいので、そのための対策をもっと充実させてほしい」など、専門職養成系の学部であるがゆえか、早くから職業志向が固まっており、それに向けた教育や支援を期待している。すなわちキャリア教育に求めるものは具体的な職業教育に特化されている傾向にある。その一方で「一般の就職の情報がほしい」「教育学部以外の進路について知りたい」という回答もあり、職業志向が高いものの必ずしも現在所属している学部の専門職にはこだわっていないと思われる回答もあった。

②については、「就職した先輩の話が聞けてよかった」「OGが行う体験談に基づいた就職についての授業」「就職についてOGとのかかわりが持てるようにしてほしい」「体験談をたくさん聞きたい」「ゲストスピークの機会が多くてよい」「リアルな現場の状況が知りたい」など、卒業生をはじめとした生の声を欲しているようである。

③については、「女性が社会に出たときどうしたらよいか」「女性が今後、社会で活躍するためにこれからどうすべきかなどを学びたい」「女性が育児をしながら働くことができる環境を知りたい」「結婚・出産後働くための情報がほしい」「結婚・出産など女子だからこそ悩むことをもう少し詳しく知っておきたい」などの声があった。

④については「これから先の社会で女性がもっと活躍するためにも自立した女性教育が必要」「女子大ならではの、女子だけで育つ環境をいかして社会に出ても立派に働ける女性の育成」「女性が社会で活躍していけるスキルを身につけたい」「女子大ならではの女子が働く方向からの視点」「女子大だから女性が働くということについて様々なことを教えてくれてありがたい」というような、女性の活躍推進

に関わる内容の要望が目立った。

⑤については、「椙山独自のマナーブック」「面接時の服装を知りたい」というような、マナーに関する要望もみられた。

これらの結果については、対象学部の特性による点もあると思われるが、かなり明確な職業志向があり、具体的にその職業に就くためのあるいはその職業を継続するための教育並びに情報提供を求めていた。教員側は、人生キャリアも見据えて、職業キャリアにとどまらない幅広いキャリア教育を志向しているが、学生側の要望は職業キャリア教育であり、またその内容もかなり具体的かつ直接的なものであったので、その意識の乖離をどのように埋めていくかが今後の課題になると思われる。

4. 結 語

以上のように、本研究では、女子大学の専門職養成学部に在籍する学生たちの大学への進学動機と今後の理想のライフコースを明らかにするとともに、キャリア教育に関するこれまでの経験と今後の希望を具体的にとらえてきた。本研究の成果を要約すると、以下のとおりである。

①女子大学の専門職養成学部に在籍する学生たちは、総じて明確な職業志向を持って進学しており、学科選択についてはそれなりに考えて選んでいる。特に教育学部にその傾向が顕著である。

②しかしながら、理想のライフコースについては、「結婚・出産後も変わらずフルタイムで働く」を希望している人よりも、むしろ「出産退職後子育てが落ち着くまで専業主婦・その後パートで働く」が圧倒的に多い。いわゆるM字型のライフコースを希望している人々が多いという結果になった。

③仕事に関しては、明確な職業志向があるものの、必ずしもすべての学生が在籍学部で取得できる資格などと直接関係すると思われるものを希望しているわけではなく、その学部の中にあって、自分なりの仕事を模索している状況も見られた。

④キャリア教育に関しては、学びの経験が少ないことがわかった。その一方で、学びのニーズはかなり高い傾向にあったので、中学・高校などにおいてもあまり学んでいないということを前提に大学でのキャリア教育の充実が必要であろう。学びのニーズは、インターンシップなどの充実や体験談を聴くことや具体的な就職支援に向けられていた。つまり、キャリア教育とはいうものの、その要求のほとんどは「職業キャリア教育」に関するものであった。

このような結果を踏まえ、今後のキャリア教育の課題としては以下のようなものがあると思われる。

1点目は、個別の学生目線でのキャリア教育の必要である。昨年実施した教養系学部の学生とは結果の傾向が顕著に違っていたということを踏まえ、それぞれの学生の状況やニーズを把握し、必ずしもニーズにのみ答えるというものではないが、学生たちの理解が不足しているキャリア分野に関する教育を充実させるとともに、職業キャリア教育については、ニーズにある程度則したものも提供していく必要があると思われる。

2点目は、特にその職業キャリア分野に関する教育について、授業として実施するものと、キャリア支援課などで支援するものとの整理、すみわけが必要であると思われる。

キャリア支援課においては、具体的実践的

な情報提供が求められるが、授業においては、多数派の事例のみでなく、多角的な視点からの情報の提供、思考のトレーニングが必要であろう。

3点目は、女子大学ゆえの利点と課題を踏まえたキャリア教育の必要性である。2015年には「女性の活躍推進法」も施行され、女性の生き方働き方に関わる社会の情勢は大きく変化してきている。そのような状況にあって、社会で活躍できる女性たちを育成するためにはどのような教育が必要であるかについて、大学の特性を踏まえながら検討すべきである。単なるマナー教育にとどまることなく、今後の社会において、それぞれの女性たちがその人らしく輝けるようなキャリア教育を模索していく必要がある。

以上のように、女子大生のキャリアデザインと女子大学のキャリア教育に関する調査を本学の学生を対象に2年続けて実施し、その結果について考察・検討してきたが、調査を実施できなかった学部もあり、また学年ごとに比較検討をするには学年ごとのデータ量にばらつきがあるなどの問題点もあり、十分な分析をすることが叶わなかった。今後はこれらの反省を踏まえ、全学部全学年でできるだけ時期もそろえて同様の調査が実施できれば、より多くのキャリア教育に向けての提言ができると思われる。また、大学入学前のキャリア教育があまり充実していないという結果もみられたので、できうることならば総合学園の強みを生かして、中学・高等学校などでも調査を実施し、更なる課題を把握していきたいと思う。

引用文献・参考文献

1) 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」(2011年1月31日)。

2) 東珠実・小川奈保子・小倉祥子・影山穂波・藤原直子・吉田あけみ「女子大学卒業生のライフコースと女子大学の特性に関する研究―20代から80代の卒業生へのインタビュー調査を手掛かりに―」、『椙山人間学研究』第7号(2012)、pp.110～136。

3) 椙山女学園大学女性論プロジェクト「ロールモデル集　椙山発の女性たち」(2013)。

4) 東珠実・小川奈保子・小倉祥子・影山穂波・藤原直子・吉田あけみ「女子大学におけるキャリア教育の比較研究」、『椙山人間学研究』第9号(2014)、pp.164～180。

5) 東珠実・太田ふみ子・小川奈保子・小倉祥子・影山穂波・塚田文子・藤原直子・吉田あけみ「SUGIYAMA　私のキャリアマップ　MY CAREER　MAP」椙山人間学研究センター(2011)。

6) 東珠実・小川奈保子・小倉祥子・影山穂波・藤原直子・吉田あけみ「女子大生のキャリアデザインと女子大学のキャリア教育に関する研究」、『椙山人間学研究』第10号（2015)、pp.141～163。

7) 京都女子大学「現代GP『女子学生のキャリア教育の体系化と普及』文部科学省現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（平成18年度・平成19年度）アンケート調査報告書」(2008)。

8) 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」(2010)。